

予報期間 1月10日から1月16日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 12日は、強い冬型の気圧配置は次第に緩み、高気圧が日本の南へ移動する。低気圧が日本海西部へ進む。
- 13日は、低気圧が北日本付近を通過して、再び冬型の気圧配置となる。
- 14日は、冬型の気圧配置は次第に緩み、高気圧が本州付近へ移動する。
- 15日は、高気圧が日本の東へ移動して、低気圧が日本海へ進む。
- 16日は、低気圧が千島近海へ進み、冬型の気圧配置となる。

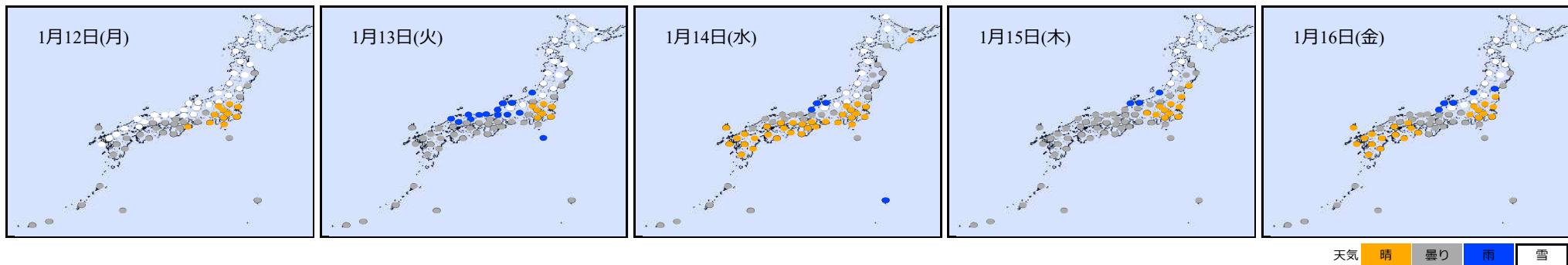
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12日頃にかけて日本付近には強い寒気が流れ込み、強い冬型の気圧配置となるため、北日本と東日本から西日本にかけての日本海側を中心に大荒れや大しけとなるおそれがあり、北日本を中心に警報級の大雪となるおそれもある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

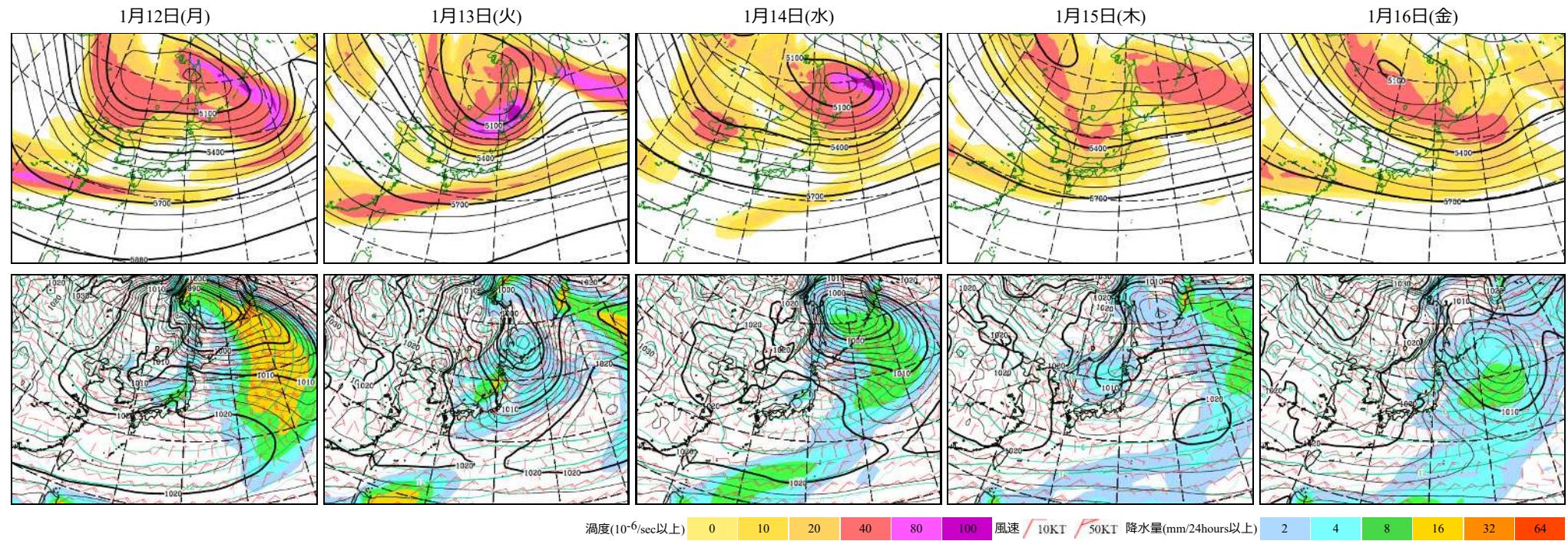
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

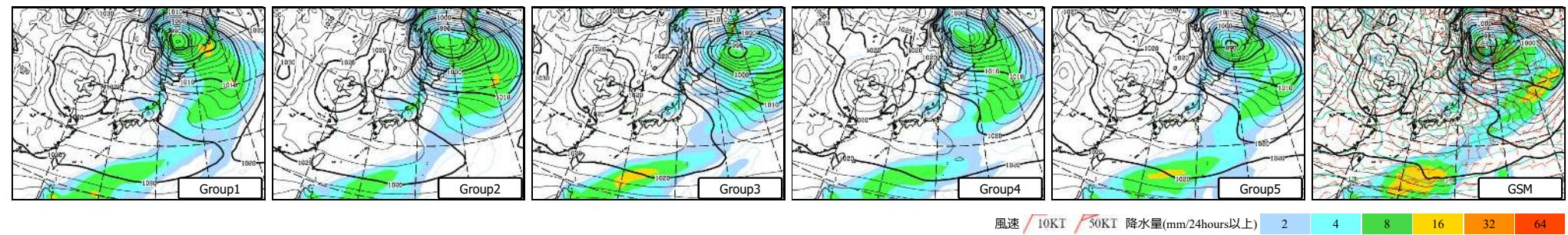


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りまたは晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図:500hPa高度線、渦度 下図:海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月14日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、13日は日本付近のトラフが深くなり、寒気の南下が強まったため、日本海側の降水確率が大きくなった。13日後半から14日は冬型の気圧配置となり、15日は低気圧が日本海へ進み、16日は再び冬型の気圧配置となるといった総観場の流れが明瞭となった。
- 各モデルとも、強い冬型の気圧配置は12日後半に緩み、13日後半は再び冬型の気圧配置となる予想はおおむね揃っている。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、5400mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。